

山口大学医学部

霜仁会会報



第300号

令和5年4月発行

発行人 福田進太郎

霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029

FAX:0836-31-7586

E-mail:jimu@soujinkai.jp

HP:http://soujinkai.jp/

印刷所 瞬報社オフリン印刷(株)

副会長・会長時代を 思い出して！

霜仁会元会長

東良輝



この度は霜仁会会報が発刊以来、今年4月で300号を迎えられる旨、誠にありがとうございます。これまで一度も中断されることなく今日まで会員のために発行し続けてこられたその努力に対して改めて感謝申し上げます。

さて、わたくしは平成14年に図らずとも会長に指名され何とか4期8年を務めさせて頂きました。その頃を思い出しながら霜仁会の活動について申し述べさせて頂きたいと思っております。元々、私は会費を払うだけのノンポリ会員でしたが、たまたま宇部市内で開業したことで人数合わせのためか理事に推薦されました。霜仁会では以前から同窓会館の建設に向けた議論があり、そのための資金もいく

らか集まっていたのですが、その額では建設には到底足りません。しかし、その後は何の進展のないまま経過してまいりました。会館建設に代わる別の事業も考慮してはとの乱暴な意見もありましたが、平成6年、医学部が創立50周年を迎えるにあたり、俄かに会館建設の機運がたまり、理事会でもその方向で進めるよう議論してまいりました。その数日後、霜仁会と大学の合同の50周年の実行委員会が開かれました。大学側から記念事業として学生・研究者等を支援するための財団の設立が提案され、了承されようとしたとき、藤井理事から霜仁会では会館建設に向けた議論が進んでいる旨の動議がなされたため、財団の件は一旦検討議題となりました。翌日、建設の真意を確かめるべき、藤井理事と私が河合病院長に呼ばれました。そこで霜仁会の立場を詳細に説明した後、病院長から賛同を得

られたため、会館建設へ大きく舵を切ることになりました。当時、3期6年勤められた山本一男会長の勇退宣言に伴い、大学側から内野文彌名誉教授の会長への推薦をいただきました。しかし、内野先生はこれからのことも若い人ではと、固辞されましたが、何とか会長に就任して頂くことになりました。内野会長就任を契機に霜仁会では会館建設の資金集めに奔走することになります。さすがに卒業生からの人望の厚い先生で、各支部総会では多くの会員の参加を得ました。しかし、その内の8月に開催された関西支部会では大変暑い日で会長には大変苦勞を掛けたいことを思い出します。最終的には皆様の温かいご支援のお陰で短い期間で達成することができました。この紙面を借りまして、厚く御礼申し上げます。会館は大学のキャンパス内へ、岸和郎先生(京都在住)の設計で総ガラス張りの超近代的な建物として建設されました。

を理由に勇退されたあと、藤野巖先生が就任されました。先生は県医師会会長時代の手腕を発揮され、まずは事務局員、役員、代議員の負担を軽くするためと、出張手当等についての体系を明確にされ、お蔭様で事務局員、役員とも大変助かっております。その後の主な行事として霜仁会創立50周年があげられます。このことについては連日理事会で討議してまいりましたところ、理事の1人から廣中学校は指揮者として世界的に有名な小澤征爾氏と親しくされていると聞き及んでおりましたので、学長から小澤氏に宇部オーケストラを指導していただくよう頼んだらとの案が出され、早速、学長の計らいで小澤氏が指揮される演奏会への出席ができませんでした。会からは藤野会長、佐藤君、藤井君が赴き、小澤氏の秘書の方にお会いすることができましたが、「小澤氏は素人相手には指揮はしない」とあっさり断られました。結局、願いは叶いませんでしたが、東の間の楽しい夢を見させて頂いた廣中学校に対し、改めて感謝申し上げます。

藤野会長は任期途中で体調を崩されましたが、50周年は目の前に迫っております。結局、その後を私が引き継ぐことになりました。会長就任後、差し迫っているのは霜仁会設立50周年行事の具体化です。連日の理事会で検討した結果、市民向けにはさらら博で大活躍されたデザイナーの山本寛斎氏を、学内向けには弘中学長に講演をお願いすることにいたしました。いずれも大変好評で、特に、山本寛斎氏の講演には多くの市民の参加を頂き、市民からは来てよかった旨のお声をいただきました。安堵したところです。

50周年行事が終了してつかの間、霜仁会検査センターの問題が浮上してまいりました。これは個人情報に関する法律が成立し、検査センターの個人データを厳重に保管するよう県から指導がありました。当時の検査センターは借家で厳重さには些か問題があり、今後このことについて思案しているところの中村事務局長から小串通りの大学と隣接した土地を宇部市が払い下げるとの情報がもたらされ、早速購入することに決めました。さて、資金はどうするかです、借金もやむを得ないかとの覚悟をしており

霜仁会会報300号に寄せて 霜仁会会長を辞任するにあたって

前霜仁会会長

福本陽平



山口大学医学部同窓会

ました時に、浦山副会長からいろいろ帳簿を調べ、かき集めると何とか成るようだとの提案があり、一挙に建設に向けて走り出しました。まずは当初の目的である、検査センターのデータの管理室、それに伴い検査センター、霜仁会事務室、会議室の建設です。資金は限られており、設計、施工を宇部市医師会館の施工にされた建設会社にお願ひし、無理な注文を付けましたが、「何とかやってみましょう」とのご返事を頂き、現在の霜仁会医学交流会館が完成しました。この会館は会員の力のみで建設されたもので、霜仁会の底力を改めて確信した次第です。

平成22年からは、福本陽平先生に引き継いで頂きました。

私が曲がりなりにもこれまで大過なく職責を果たせたのも事務・役員の方をはじめ会員の皆様のお力添えがあったものと深く感謝申し上げます。

霜仁会におかれましては今後更なる発展されんこと並びに、関係各位のご健勝をご祈念申し上げます。ありがとうございました。

山口大学医学部同窓会

ある霜仁会は、1944年(昭和19年)に開校した山口県立医学専門学校(1944~1951年)に始まり、山口県立医科大学(1947~1968年)を経て、1964年(昭和39年)に国立大学へ移管したことに

より山口大学医学部同窓会となつて現在に至つています。この間、1949年(昭和24年)に第一期卒業生を世に送り出して以来、現在まで霜仁会会員の総数は約6900名におよび、

会員は海外ならびに全国各地の医療、医学の現場で活躍されています。また、霜仁会支部は東京にある関東支部を始めとして、全国に

33支部(山口県内には12支部)があります。すなわち、関東支部、中京支部、北陸支部、京滋支部、大阪

支部、兵庫支部、岡山支部、広島支部、山陰支部、四国支部、北九州支部、福岡支部、佐賀支部、長崎支部、佐世保支部、宮崎支部、熊本支部、大分支部、鹿児島支部、沖縄支部と、

山口県内には岩国支部、柳井支部、周南支部、山口支部、防府支部、長門支部、萩支部、宇部支部、小野田支部、厚狭支部、美祿支部、下関支部、山口大学支部があります。各支部には

支部長が就任しており、各地で支部会活動が行われています。支部の所在地や内容についてのご不明な点は、宇部市の霜仁会本部事務局にお尋ね下さい(電話0836-22-2029、E-mail:jinnu@soujinkai.jp)。

本部事務局は山口大学医学部の西隣に建てられた霜仁会医学交流会館3階にあります。

私、福本(昭和47年卒)は、2010年(平成22年)4月から2022年(令和4年)5月まで、前会長であった東良輝先生(昭和

42年卒)の後を受けて、霜仁会会長を務めさせて頂きました。また、副会長には福田進太郎先生(昭和54年卒)と藤村嘉彦先生(昭和56年卒)にお願いし、この

間、両先生は多彩な会務を強力に支え、更に進められました。平成25年4月には

国の公益法人制度改革により、名称が社団法人霜仁会から一般社団法人霜仁会へと変わりました。霜仁会活動は山口県立医科大学時代から続く山口大学医学部

で、医学を学んだ者同士がお互いの交流を図り、医師としての資質を高め、地域医療の充実や、引いては母校である山口大学医学部の発展に寄与することにあると思ひます。山口大学医学部を巣立って医師となり、全国各地で医学や医療に従事されている先生方に

湧き、大変心強よく感じるものです。山口大学医学部は第二次世界大戦中に軍医を養成するために、全国に新設された医学専門学校のひとつとして開校されたと伺っています。しかし、その後、山口県立医科大学へと発展し、昭和29年5月に山口県立医

学専門学校および山口県立医科大学の卒業生によって設立されていた二つの同窓会は、合併し一つの同窓会「霜仁会」となりました。

この時、当時の同窓会の役員によって付けられた「霜仁会」という会の名称は、宇部市の北側にある霜降山から「霜」の字を、医は仁術である」という格言から「仁」の字を取って、「霜仁会」にしたと聞かされて

います。昭和39年4月に山口県立医科大学が国立大学に移管され山口大学医学部となり、山口大学医学部同窓会霜仁会が設立されました。

霜仁会の運営は、会長の下にある理事会(25名以内)の理事、2名の監事で構成)を月1回開いて協議を行い、会の活動方針を決めてきました。さらに、支部代表、期別(卒業年度別)代表、学生代表、2号会員(山口大学医学部縁故者)代表者から構成される総会

があり、最高議決機関として年1回開催しております。また、霜仁会会報を年4回発行して、理事会、総会の報告や医学部新任教授の紹介、各科研究室や関連病院の紹介、卒後臨床研修の状況、医学部学生の部活・大

学生生活などについて報告しています。霜仁会会報に目を通して頂くと、昨今の山口大学医学部の状況が透けて見えると思ひます。

私が会長を務めた十年余りの期間は、幸いにして西日本地方では東北地方で起きたような大地震のような大きな災害がなく、また、国立大学の存在を問われるような社会問題が生起することもなく、比較的穏やかな期間であったと思ひます。一方、国内的には、医療提供体制や保険医療の在り方が問われ、医学部の教育カリキュラムの改革が叫ばれ、我が国ではどんな組織も変化しなければ存続できないという命題が残つたようです。医学部同窓会もこの命題を内包しながら、次の時代へと進まなければなりません。

結びに、霜仁会会報が300号を迎えられたことに謝辞を申し述べます。さらに、今日まで私や霜仁会活動を支えて下さった、霜仁会事務局の方々のご努力に敬意を表します。また、会長在任中に霜仁会会員の皆様から賜った、数多くのご支援やご協力に対して、心より感謝いたします。誠に、

ありがとうございました。

霜仁会報300号発刊に寄せて

— 自分の理事活動を振り返って

霜仁会会長

福田進太郎



うになり、気が付けばいつの間にか30年以上が経過し、理事の中では最古参になっていました。

長い理事活動の中でも印象深いことを3つ挙げるとすれば霜仁会館の建設と霜仁会創立50周年記念事業、副会長になってからの各支部会の皆様との交流です。

念願であった同窓会館の建設は理事会の議題として度々話し合われましたが、2億円近くにはのぼる予算規模、資金の調達方法などを具体的に詰める段になってなかなか結論が出ず後回しになってきていました。山本会長の後任に内野文彌会長が就任し「私の目の黒いうちに完成させましょう」と宣言されたのを機に具体的構想が動き始めました。

福田信二理事や会館建設委員長に就任した藤井新也理事のエネルギーな活動を推進力として全員が役割分担を決めて進み始めました。特に内野会長と藤井理事は寄付のお願いも兼ねて全国の支部会を隅々まで行脚され、疲労も相当なものであったことと思います。

後に副会長になって全国の支部会に出席した際、内野会長の同級生や親しい方々から「随分寄付したが、内

野君が自分もこれだけ出すのでお前ももう一声頑張ってくれと言われて協力したよ」というお言葉を何度も聞き改めて頭が下がる思いでした。この時の無理が祟って病に倒られたのではないかと気が持ちがずつと心に残り、訃報を聞いた後、バラが美しく咲くご自宅に何つてご仏前に手を合わせた時に涙が止まらなかつたことを思い出します。

現在も多くの会合に利用されている立派な会館を訪れ木田池を眺めながらと建設のためにご寄付を頂いた皆様に對する感謝の念を禁じえません。また同時期に行われた財務体質改善のため年会費を5000円から10000円への値上げを會員の皆様にお願ひするため各支部を回ったことも記憶に残ります。将来的な同窓会業務維持のための財務状況の説明や、本部理事が無給で業務に就いていることなどを説明して回りました。各支部では年会費とは別に支部会費を集めておられるところが多いのですが、ある支部会では支部長の先生が支部会費を減らして年会費の値上げを受け入れましようと思われ皆様に

言って下さったことが忘れられませんでした。霜仁会創立50周年記念事業も記憶に残る大きな事業でした。全日空ホテルで行われた懇親合同クラス会、市民1500人以上が参加した山本寛齋さんの記念講演会やゴルフ大会、関連開催された同期会などは会報でも報告された通りです。

山本寛齋さんは記念事業の2年前の2001年に山口市で行われ大成功をおさめた「山口さらさら博」の総合プロデューサーを務められ、その際に知り合った多くのの方々との講演会の際に再会を喜びあっていた笑顔が印象に残ります。記念講演会前日に一緒にお食事をしましたが、高知出身だけあって焼酎のロック以外は飲まれずその酒豪ぶりにもびっくりしました。その後も何度もお便りを頂きましたが、残念ながら2020年7月に亡くなられ再会がかないませんでした。

内野会長以後も藤野巖会長、東良輝会長、福本陽平会長と優れた会長の下で仕事をさせていただき水田副会長が退任された後は組織対策、勤務医対策、国際交流などを担当する副会長として全国の支部会に出席しました。この経験の中で、

山口から遠く離れた地に腰を据えて頑張っておられるOBの方々が学生時代の想い出を大切に、母校を忘れずに集って下さることに感謝するとともに同窓会組織を必ず維持・発展させねばならないという意を強くしました。毎年のように支部会を訪れていますと各地の卒業生から顔と名前を憶えていただき、大学の近況や県内の様子をスライドにして披露すると皆さん大変喜ばれ、「またきて下さい」と言っていたら、

旅の疲れも飛んで出席してよかったですと思いがらいつも帰路についていました。福本陽平前会長は大学で教鞭をとられた期間も長く、「先生はスマートで印象深い授業でした」と多くの卒業生が支部会にきてくれたことも思い出されます。

今後も霜仁会報の紙面を充実させるべく努力を続けると共に、會員の皆様にも各種情報交換、意見発表の場として紙面を利用していただければ有難く存じます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

私が理事に就任させて頂いたのは平成2年4月1日のことでした。当時宇部興産中央病院に移動してまだ数年目の頃、理事をされていた岡村知實先生から、仕事が多忙のため理事の仕事

を代わって引き受けてほしいと推薦されたことがきっかけでした。学年の近い先輩後輩との関係や同期会などや自分が立ち上げた医学部ラグビー部のOB会活動は大事にしていましたが、霜仁会の活動には正直言つて時折会費納入のお願いが届く以外には全く関わっておらず自分のような者が理事になっていいのだろうかと思つた。当時の執行部は山本一男会長、小倉浩二・横山敬副会長で

した。実際に理事会に参加してみると、会長、副会長はじめ多くの理事の方々には本職の医師としても超多忙な方々ばかりでした。そのメンバーが同窓会のために会報発行や検査センター事業を始めとした年間予算・決算を始めとして奨学金や各種健康増進事業への補助、新任教授との懇親会など寸暇を惜しんで無給で同窓会のために働かれています。米の私も次第に母校のために霜仁会活動に注力するよ



2代
森 茂樹(故人)
(昭和32年12月～昭和40年1月)

霜仁会 歴代会長



初代
松本 彰(故人)
(昭和27年4月～昭和32年11月)



6代
坂田富士哉(故人)
(昭和48年4月～昭和52年3月)



5代
有蘭初夫(故人)
(昭和46年9月～昭和48年3月)



4代
井上一男(故人)
(昭和44年3月～昭和46年8月)



3代
中村正二郎(故人)
(昭和40年2月～昭和44年2月)



10代
藤野 巖(故人)
(平成10年4月～平成14年3月)



9代
内野文彌(故人)
(平成6年4月～平成10年3月)



8代
山本一男
(昭和63年4月～平成6年3月)



7代
林 公夫(故人)
(昭和52年4月～昭和63年3月)



13代
福田進太郎
(令和4年5月～現在)



12代
福本陽平
(平成22年4月～令和4年5月)



11代
東 良輝
(平成14年4月～平成22年3月)

母校への尽きせぬ思い

山口大学元学長

加藤 絃

ひょうし



霜仁会報の300号記念に、改めて多くの方々懐かしいお顔を思い出す。編集部から大学時代の教育の思い出などをとのご希望を頂いたので、思い付く俚に少し書かせて頂いた。

私は1960年に当時の山口県立医科大学に入学したが、当時は教師も学生も一人一人が自由に伸び伸びとしていた時代で、実習時間は真面目に出たが講義は出席も取らなかつたので休み放題。学業そつちののでクラブ活動に熱中していた。入局後も一般に医師の裁量権が重んじられた時代で、当時の藤生太郎教授の「当教室の使命は開業医を育てること」の方針で、入局2週間目には末期癌患者の主治医を任せられ、3カ月目には自らメスを持って開腹手術をさせて頂いた。大学院でもテーマは貰ったが具体的に何をするかは本人

の自由で、経費も年間一人4万円までは自由に使えた。パチンコや麻雀に使った人もいたかも（失礼）。いずれにせよ最低限必要な縛りは有るが後は自分の責任で自由にやれとの雰囲気だった。学生の講義もしたが、自分の好きな話題で経験談をして、「後は教科書を読んでおきなさい」だった。

しかし1990年代に入り雰囲気が変わり始めた。1979年に始まった大学共通第一次試験が1990年に共通入試センター試験となり、学生教育もカリキュラムを立て計画的に行うべしとなった。体制的にも縛りが厳しくなり、1991年の大学設置基準大綱化で教養部が廃止され、更に大講座制や大学院重点化など新たな施策が次々に施行されて、数年後には全ての国立大学が法人化されるとの噂も飛び交う。当時医学部長だった私も時流に遅れまいとつい頑張つて独断的な行動も多かったと思う。暖かく支えて下さった皆様

に改めてお礼を申し上げる。

幸い山口大学は1998年に世界的な数学者の廣中平祐先生を学長に迎え、「発見し、育み、形にする」をモットーに前向きで一体感も強く、法人化を機に旧帝大を凌ぐ大学になれるかもとの意気込みさえあった。

しかしその廣中先生が2002年に辞められ、思い掛けず私が学長を拝命した。何も知らない強みで気軽に仕事を始めたが、着任早々に文部科学省から2年後の法人化に向けて5年間の中期計画を策定するよう命じられ、苦行の日々が始まった。外部評価を受けるのでお座りの対応では済まない。各学部から大学院、研究施設、附属病院、附属学校まで大学全ての施設を対象に、まずは現状を調べて改善すべき点を洗い出し、具体的な改革策を示して実行に移す。会議会議の毎日に学長になったことを後悔したこともある。

金も毎年1%削減され、外部資金が必要だが具体的な成果を見せないと国も企業も資金を出さない。短期的なリスクの少ない活動に集中せざるを得ないが、そんな面白味のない雰囲気では来性の有る人材やシーズを育てられるのか。仲間内では議論も多かった。

しかしそんな中でも嬉しかったのは、本学の皆さん方の明るい前向きな姿勢。少し位意見が違つても一体となつて頑張つて呉れる。文部科学省の山口大学に対する評価も鰻登りで、日本経済新聞の或る記者は「西日本で一番注目しているのは山口大学」とさえ云つて呉れた。

薬部プログラム・スーパーバイザーを勤めてきた。新たな医療機器や治療薬を開発する研究者や企業に国の資金を提供して成果を出して貰う仕事だが、実際に物を創り出すのは実施者で、良い成果を出すも出さないも彼等次第。開発途中で思わぬ問題が生じるのは日常茶飯事で、国からの圧力もあつて私もつい厳しい事を言つてしまふが、実施者はそれぞれ優秀な人達なので、私がネットで調べた程度の知識で余計なことを言うより、彼等が自分のプライドを掛けて本気で頑張つて呉れるのが一番。思わぬ成果も生まれる。

そんな皆さん方に余り御参考にはならないと思うが、最近の仕事で感じたことを少し書かせて頂く。大学を辞めた後、縁あつて新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)のプロシ、続いて国立医療研究開発機構(AMED)の創

おりに司会者が「練習はされましたか？」と尋ねた時の彼女の答えが面白かつた。「画面に示される音程やリズムのバーに合わせて練習はしたが、折角の自分の持ち味は殺したくない。一体この番組の目的は何ですか？」。単なる視聴率稼ぎですか、とは言わなかつたがそう聞こえたし、持ち歌の「鳥取砂丘」を歌つて点数も低かつたが平気な顔は、何十万人かの平均値だと云う。世間の常識も大事だが、時には既成の枠を超えて新たな特徴を認めて育てる気持ちの余裕も必要であらう。

最後は少し個人的な意見になり申し訳なかつたが、霜仁会員の一人として母校の益々の発展と霜仁会の諸先生方の御多幸を心からお祈りしている。

もう一つ最近気になるのは、既成データに基づく判断と人間の独創性の擦り合わせ。俗っぽい話で申し訳ないが、昨年大晦日に見たテレビのカラオケバトルで、ベテラン歌手の水森か

山口大学長時代での思い出

岡 正 朗



この度は、霜仁会会報が300号を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。また、記念すべき300号に私の原稿が掲載されますことを光栄に存じます。

2022年3月末に8年間に渡る山口大学長の任期を満了しました。山口大学には、昭和45年（1970年）4月に入学して以来、令和4年（2022年）3月に卒業するまでの52年間、大変お世話になりました。

その間、霜仁会の理事として活動し、外科学第二講座の教授就任後もご高配賜りました。特に、母校の学長を拜命し、様々な改革に取り組むことが出来ましたが、霜仁会の皆様の絶大なご支援によるものと、心より感謝申し上げます。

学長になって、最初に発信したことは「学生第一！学生のために」、「山口県

にある大学でなく、山口県の大学である」を常に意識することでした。政府から地方大学は、地域に貢献することを強く求められる時代となり、毎年のように大学改革が求められました。

10年後を見据え策定した「明日の山口大学ビジョン2015」でのキャッチフレーズを「地域とともに時代とともに 維新の息吹を今 地域から世界に」として、8年間を走り抜けました。

様々な事業を行いました。中でも山口大学創基200周年を祝う大行事は最も印象が残る一つです。山口大学は1815年に長州藩士 上田鳳陽先生により創立された「山口講堂」を源淵とすることから2015年（平成27年）に創基200年を迎え、その記念事業に学長として参加できたことは、名誉なことでした。国内の大学で最も長い歴史を持つ本校への誇りをさらに強くした機会でもありました。2015年から

部が揃って大内御堀の乗福寺にある鳳陽先生のお墓参りをするのが恒例になりました。折しもNHKの大河ドラマで吉田松陰の妹

文と長州藩士 榎取素彦を主人公とした「花燃ゆ」が放送され、NHKの協力を得た講演会を開くことが出来ました。記念式典では当時の安倍晋三総理大臣にビデオによる祝辞を頂き、山口県選出の衆議院議員及び

参議院議員の皆様、県知事にもお言葉をお聞きし、山口大学の卒業生で直木賞作家古川薫氏による特別講演が行われました。山口大学の歴史と創基200周年関連についてはHP内の「山口大学の来た道」をご覧ください。

創基200周年の記念として、卒業生、企業、教職員、保護者などの多くの皆様のご厚志により、「山口大学基金」を設立できたことは感謝に耐えませんでした。当時の大学基金は教員への支援が主体の「山口大学後援財団」でしたが、本基金は学生支援に特化した「山口大学後援財団」は平成29年度末に解散し、

2020年5月には新型コロナウイルス感染症により経済的に困窮した学生への経済支援として、返還を要しない緊急給付型奨学金1億円を速やかに用意することが出来ました。お陰様で、経済的理由により退学した学生は殆どなく、最大の危機を乗り越えることが出来たことを、感謝申し上げます。今後も継続したご支援をお願いする次第です。

以下は、医学部関連を中心に述べます。医学部の最大の事業は、国立大学の先頭を切って行われている病院再々開発です。2019年（令和元年）3月に屋上にヘリポートを有する13階建ての新棟（現時点では

宇部市で最も高い建物）が竣工したことは感無量でした。と言いますのも、私自身が新病棟を含めた病院再々開発を決定した病院執行部の一人であったからです。東日本大災害により工賃や資材費が高騰したこと、再開発の最中にCOVID-19がパンデミックになったことなど様々な困難を乗り越え、素晴らしい病院が開発されており、多くの皆様の努力により完成へと着実に向かっています。

生であつた頃と殆ど変わらなかつた。これで母校愛が語れるかと思われる状況でした。山口県及び県議会の協力もあり、2018年（平成30年）3月に5階建ての総合研究棟が竣工しました。本施設は、CICの充実など学生たちに魅力的な教育環境を提供するとともに、地域連携による最先端医療イノベーションの創出・地域発

バイオ産業の創生、さらに現在治療が困難な疾患の病態解明や新たな治療法の開発など、最先端の医学研究を推進する場となっています。2021年（令和3年）度には、医学部並びに工学部図書館がそれぞれの学部のコンセプトに基づいてリノベーションされ、素敵な図書館に生まれ変わりました。現在、臨床研究棟

のリノベーションが進んでいます。大学の改築と置き換えてみると、大変ご迷惑をかけておりますが、文科省から予算措置がなされた事情もありますのでご理解ください。少し話は異なりますが、病院長を務めた関係で医療スタッフとの懇談会を毎年1回行いました。自然と活動報告や要望が出され、私としては楽しい時間となり

ました。看護部、臨床検査部、薬剤部、放射線部、リハビリテーション部、栄養治療部から参加していただきました。最近では皆さんが病院経営について結束して取り組んでおられ、病院再々開発は必ず順調に経過すると確信しました。頼もしい限りです。

以上、皆様に支えられつつ、あつという間に8年が過ぎて行った感があります。山口大学の発展には、医学部の一層の活躍並びに霜仁会の支援が必須ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。結びに、霜仁会員全

ての皆様のご健勝、ご多幸を祈念して筆をおきます。

霜仁会会報300号を祝す



山口大学長 谷澤幸生

霜仁会会報が300号を迎えられること、誠にありがとうございます。

私が山口大学医学部に入学した昭和52年当時は、医学部の事務棟は木造2階建て、その近くには木造の講堂がありました。キャンパスの北側には、木造平屋建ての病棟も残っていました。

学生時代に学務課で「新聞」が配付されていました。それが「霜仁会会報」であったかどうかの記憶がありません。山口大学医学部創立50周年記念誌によると、昭和21年11月に山口県立医学専門学校文化部により「校内新聞」が創刊され、昭和29年6月に山口大学新聞部により、「山口医大新聞」が創刊されたようです。そして、昭和44年1月には「山口大学医学部新聞」81号が発行され（創刊時期はわかりませんが）、その号には愛媛

県支部会報告や三三会クラブのの記事が掲載されています。霜仁会会報の源はこの「山口大学医学部新聞」にあるのかもしれない、と

士後期課程が設けられ、医学部卒業業者も博士前期課程（修士課程）で修士号を得て、後期課程に進み博士号を得る、という医学系には全くなかった形態でした。毎月、医学系、工学系の教授が集まって議論し、制度を苦勞してまとめたのは記憶に鮮明です。

昭和58年に卒業し、第三内科に入局しました。大学院修了後、関連病院、留学を経て平成5年に大学に戻り、平成14年5月に、岡芳知教授の後任として第三内科（応用医工学系独立専攻生体シグナル解析医学講座分子病態解析学分野）の教授に就任しました。名称が複雑なのは、全国の大学で大学院重点化に伴い、前年に山口大学でも大学院医学研究科に應用医工学系独立専攻が設置されたことによりです。医学系から第二生化学、第二内科、第三内科などが参加し、工学系からも3講座が参加した医学と工学の融合した新しい専攻系で、博士前期課程、博

また、この時期に医学部総合研究棟（医修館）（平成31年1月）、新病棟（附属病院A棟、同3月）が相次いで竣工しました。「新病棟」の計画は、平成21年頃、旧第2病棟の耐震化の必要性に伴って議論が始まりました。ちょうど附属病院の経営が良くなってきた頃で、当時の松崎病院長の英断により新築を決定し、全国の国立大学医学部附属病院の2度目の再開発のトッパッターとなりました。平成17年から10年間副病院長を務めており、建設のためのWGを任せられ、準備を進め、平成27年に着工に至りました。

令和2年4月に副学長、令和3年に理事・副学長を拝命し、令和4年4月に第14代山口大学長に就任し、40年余りを経て小串から吉田に戻りました。山口大学は創基2008年を経て9学部、8研究科、学生数10000人以上の規模の基幹大学です。「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」を基本理念としています。学長就任にあたり、「明日の山口大学ビジョン2030」を策定しました。「知の創造としなやかな人材育成により、地域

療はもとより、大学の研究力に大きな影響を与えています。国立大学の独立行政法人化も、平成16年4月でした。こうして改めて振り返ると、私が教授に就任した前後数年は、まさに大きな変革が押し寄せた時代でした。平成17年発行の第三内科同門会誌の巻頭言に、私は「未来へ」と題して、「大学は今、それぞれ2年目を迎えた独立行政法人化と、臨床研修義務化のなかで、落ち着く先を求めて懸命に努力を続けています。「乱世こそ楽しい」との言葉を残して退官された教授がいらつしやいました。私もそのこれまでの心の余裕は持てないまでも、もう数年は産みの苦しみ、と前向きにとらえるしかありません。」と記しています。まさにその通りでした。

(https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_vision/index.html)、是非、一度ご覧ください。

昭和52年に18歳で山口大学に入学したときには、こんなに長く山口大学に通い続けるとは夢にも思いませんでしたが、すでに47年目となりました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長就任のご挨拶

山口大学医学部附属病院長

松永和人



平素より、霜仁会の先生方にはご指導とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。この度、山口大学医学部附属病院の新病院長を拝命しました松永和人です。就任のご挨拶と今後の抱負についてご紹介する機会を与えていただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

私は、平成3年に和歌山県立医科大学を卒業後、呼吸器内科学を学んできました。平成27年に新設された呼吸器・感染症内科学講座の教授として山口大学に着任しました。以後、呼吸器・感染症内科の診療科長、感染制御部長を務めております。平成29年からは副病院長および医療安全管理責任者として病院の管理運営に携わってまいりました。令和2年からの新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの生活だけでは

なく病院の管理運営にも大きな影響を及ぼしてきましたが、附属病院では全職員で難局に立ち向かい、多職種による協働、安全管理、高度医療の提供等を一層推進してきました。先行きが見えない状況は暫く続くかもしれませんが、患者が安心して良質な医療を受けられる療養環境と、職員が安心して個性と能力を発揮できる職場環境を整え、これからも県内唯一の特定機能病院として地域社会を守る医療と高度医療を同時に提供する役割を果たしてまいります。

病院運営の重要課題である病院経営、医療安全、人材育成、働き方改革、研究開発、地域社会貢献等について、今後の抱負を簡単に述べさせていただきます。新型コロナウイルスによる安全や医療崩壊への不安に対応する病院経営の方針は、「院内の感染防止と患者および職員の安全確保に努め、かつ高度医療を提供する診療機能を維持すること

とで経営基盤の安定化を図る」ことです。患者中心で良質な医療の基本となる安全の確保をすべての職員が担うことで、患者（家族）満足度をさらに向上できるように努めます。対話と合意を基本に、透明性の高い運営を行い、すべての職員が誇りと喜びをもつて職務に取り組み、地域社会からの信頼と期待に応える魅力的な大学病院を目指します。

令和6年から始まる、医師の時間外・休日労働時間の上限設定に向けて、労働時間の短縮計画を整備し、「医師の働き方改革」を推進します。さらに、看護師特定行為研修やタスク・シフト/シェアの推進、委員会・会議等の効率化、時間外勤務時間の縮減、など業務環境の改善に取り組みます。仕事と生活の調和や多様な働き方と人材活用(Diversity & Inclusion)を推進し、研究、高度技能の修得、社会人リカレント教育などの多様な自己研鑽を推進することにより、誰もが主体的に夢への挑戦を実現できる環境を充実します。さらに、AI技術の活用で情報共有と新たな知の創造に取り組み、人間中心の豊かな生活を目指すSociety 5.0の実現に貢献する研究開発を推進します。診療支援システムの開発と実装化(AIホスピタル事業)を推進し、業務効率の改善や地域医療の課題解決に挑戦していきます。

最後に、山大病院は、すべての職員の有機的な協働(チーム医療)により、安全で良質な医療を提供し、優れた医療人材を育成していくことで人々の生活と繋

* 2023年 *

霜仁会総会のお知らせ

日時：2023年5月14日(日) 総会 13時30分より

場所：ANAクラウンプラザホテル宇部3階

山口県宇部市相生8-1

TEL (0836) 32-1112

がりを守り、安心して暮らせる地域社会の実現に貢献してまいります。「地域からの信頼と期待を糧に、夢への挑戦を実現し、社会に貢献する山大病院」を次世代に引き継いでいきたいと考えております。また、医学部附属病院だけではなく、山口大学の発展のために全力を尽くしてまいります。今後ともご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事會報告

第8回理事会

令和4年12月16日(金)

19時より医学交流会館3階会議室において、24名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 11月18日(金)

霜仁会賞選考委員会

(山本)

2. 11月27日(日)

岡山支部会及び第8回山口大学連合同窓会

(福田)

3. 12月16日(金)

白衣着衣式

(福田)

1. 村上順一先生の2号会員入会が承認された。

(白澤)

2. 令和5年度霜仁会総会の開始時間及び懇親会の開催について、総会は13時30分から開始し、懇親会は開催する方向で検討することが了承された。

(藤村)

3. 第1回霜仁会賞選考委員会の出席予定者を確認した。

第9回理事会

令和5年1月20日(金)

19時より医学交流会館3階

会議室において、21名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 12月7日(水)

国際医学交流委員会

(藤岡)

2. 12月27日(火)

霜仁会賞選考委員会

(山本)

【審議事項】

1. 新たに制定及び一部改正した規程等について、審議した。

(白澤)

2. 霜仁会ロゴについて、商標登録を確認し、次年度より正式なロゴとして了承された。

(藤村)

3. 後任理事の選出について、令和6年度の役員改めて、後任理事は選出せず、現体制(理事24人体制)で運営することが了承された。

(福田)

4. 第11回霜仁会懇親総会の開催時間について、17時から18時に変更になったことを確認した。

(藤村)

5. 霜仁会学術振興賞最終選考委員会の出席予定者を確認した。

(藤村)

退任挨拶

退任の御挨拶

山口大学大学院医学系研究科
器官病態内科学講座

教授

矢野雅文



是正、にも有効である、といったことを約30年かけて解明することが出来ました。これらの研究成果は、第二内科の財産であり今後も引き続き後輩たちがさらに発展させてくれることを期待しています。

昨今、高齢化に伴い循環器疾患患者は増加の一途をたどり、しかも腎臓病や呼吸器・感染症の合併により病態は複雑化しているため、専門性に裏付けされた高度な総合内科的診療の出来る臨床医の育成が極めて重要になると思います。次の教室の主催者には、優れた人材育成、地域医療への貢献、独自性のある研究活動に尽力していただければ、誠にお願いいたします。退職後は、微力ながら臨床医として地域医療に貢献する傍ら、連携講座である高齢者心不全治療学講座の活動を見守っていきたくと思っています。山口大学医学部、医学部附属病院、霜仁会会員の皆様のご発展とご健勝を祈念しております。

この度、令和5年3月末日をもって定年退職いたしました。私は、昭和58年に山口大学医学部を卒業し、すぐに第二内科(旧内科学第二講座)に入局、多くの循環器疾患患者の診療に従事してまいりました。臨床に明け暮れる傍ら、心機能と後負荷の連関に関する動物実験もしておりましたが、マクロ的な視点のみでは、なぜ心不全では心収縮・拡張能が障害されるのか? という疑問に十分に応えることが出来ず、ミクロ的な視点が重要と考えるようになりました。平成5年6月より約2年間、松崎益徳(前)教授のご支援により Boston Biomedical Research Institute への海外留学の機会を得て、骨格筋の筋小胞体カルシウム放出チャンネル(C₂RC)の基礎研究に携わりました。それまでピペットも持ったことのない状況で、ボスから(叱咤) 2 激励されながら、ウサギの骨格筋から筋小胞体を精製後にC₂+動態を測定する毎日でした。留学後より、骨格筋を用いたC₂+動態測定技術を早速心筋に応用し、「心不全・致死的不整脈における心筋細胞内カルシウムハンドリング異常」に関する研究をその後継続して行うようになり、共に取り組むようになりました。①不全心筋細胞内ではC₂+がC₂RCから漏れている、②ある種の化合物がC₂RCの4量体構造を安定化する、③C₂+漏出を抑制し、心肥大の抑制、心機能の改善、致死的不整脈の抑制につながる、④RYR構造安定化薬はアルツハイマー病の発症抑制、脂肪肝の

2023年 霜仁会年会費 自動引落のお知らせ

年会費: 10,000円 自動引落予定日: 2023年5月★日
自動引落のお申込みは霜仁会事務局までご連絡下さい。(0836-22-2029)
どうぞよろしくお願いいたします。

就任挨拶

教授就任のご挨拶

新任教授

山口大学大学院医学系研究科
臨床神経学講座

教授 **中森雅之**



令和5年1月1日づけで、山口大学医学系研究科臨床神経学講座教授を拝命いたしました中森雅之と申します。着任にあたり、霜仁会の諸先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は京都市で生まれ育ち、平成5年に大阪大学医学部に入學いたしました。卒業後は大阪大学神経内科学講座に入局し、大阪大学医学部附属病院や関連病院で脳卒中をはじめとする急性期医療から、神経筋難病にたいする慢性期診療など、幅広く神経内科診療に携わりました。平成15年より大阪大学大学院医学系研究科にて筋ジストロフィーの研究に従事し、平成19年に学位取得した後4年間、米国ロチェスター大学にて

研究の展開をいたしました。帰国後は一貫してトリプレットリピート病といわれる神経筋難病の病態解明と、治療法開発に取り組んでおります。このたびご縁をいただき、山口大学臨床神経学講座の一員として加えていただくこととなりました。当講座は、先々代の森松光紀教授、先代の神田隆教授、そして歴代の教員の先生方が臨床面でも研究面でも輝かしい成果をあげられており、日本を代表する神経内科教室です。こうした教室にお迎えいただくこととなり、大変光栄に存じておりますと同時に、とても身が引き締まる思いです。脳神経内科診療は、脳梗塞の血管内治療や神経免疫疾患の抗体医薬治療など、急速に治療法が発展しております。従来治療法のなかったこれら疾患について、適切に診断し、ベストの治療が行えるよう、

より一層の診療レベルの向上を教室一丸となって目指したいと考えております。また今もって治療法のない神経筋難病においても、一日も早く根本的治療薬を患者様へお届けできるよう、基礎研究、橋渡し研究、臨床研究などを精力的に進めて参りたいと思っております。霜仁会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学内報告

白衣着衣式謝辞・宣誓

医学科 四年総代 **羽鳥未季子**

本日は、御多忙の中、私達が支えられていることを自覚し、感謝し続けることを誓います。一つ、本日いただいたこの

白衣に袖を通すことで、医学生として医療に携わることを強く実感すると共に、その責任の重さを実感しています。医療人としての新たな一歩を踏み出す私達の決意として、誓いを述べて頂きます。

一つ、医療従事者としての責任を自覚し、常に謙虚な姿勢と向上心を以て、自らの生涯を医療の発展と人道のために捧げることを誓います。

一つ、これまでに学んできた知識を臨床の場でより実践的なものに昇華し、日々弛まぬ研鑽を積むことで医師としての専門性を追求していくことを誓います。一つ、患者さんをはじめとした先生方や医療スタッフの方々など、医療に関わるすべての人に自分たちの学

白衣に恥じぬよう、医療人となることの責任と使命の重さを忘れることなく、日々の実習に真摯に取り組みむことを誓います。
以上、頂いた白衣の責任と使命を胸に、日々精進して参ります。
(集合写真はP11に掲載)





令和4年度 白衣着衣式（山口大学医学部 医学科 4年生） 2022年12月16日 記事はP10に掲載

第144回西日本整形・災害外科学会学術集会

2022年11月12日(土)・13日(日)の2日間に、第144回西日本整形・災害外科学会学術集会を宇部市のINAKURAプラザホテル宇部にて開催いたしました。この学会は九州、沖縄、山口、鳥取に属する計12大学の整形外科が持ち回りで半年に1回運営されている学会です。コロナ禍の中でいったん誌上開催となったものの、2020年秋から現地開催が復活し、今回も招宴などは執り行わず現地開催とさせていただきます。私にとりましては2021年10月に同ホテルで現地開催予定であった第54回中国四国整形外科学会がコロナ禍によりWEB開催となったため、人生初の現地で開催させていただいた学会となりました。

特別講演として山口県厚生連・小郡第一総合病院統括院長 土井一輝先生に「一般整形外科医のための上肢末梢神経麻痺診断・評価のピットフォール」、また九州大学から着任された大阪大学整形外科教授 岡田誠司先生に「整形外科研

究の新时代」と題して大変貴重なご講演を賜りました。また教育講演として、本学出身の大阪大学感染制御学教授 忽那賢志先生に「COVID-19 最近の話題」と題して最新の新型コロナウイルスに関するご講演を賜りました。学会運営に際し、会場の質問用のマイクを質問が終了するたびにアルコール消毒をする対応が大変であったため、必要かどうかを座長として質問させていただいたところ、忽那先生に「間接的な感染の事例は限られており、必要ない」と明快にご回答いただいたことが大変印象的でした。

「厚狭のホテルに宿泊している」という先生もおられました。少しでも宇部市ひいては山口県の活性化に貢献できればとあらためて思いました。いろいろと予想外の出来事もございましたが、事務局長の今城靖明先生ならびに整形外科学会に盛会のうちに学会を終らない経路も多く聞かれました。最後にになりましたが、学会の開催に際し、山口大学及び関連病院の霜仁会の先生方にも多くのご支援を賜りました。この場をお借りして深甚なる感謝の意を表します。皆さまのご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。



(整形外科学・坂井孝司)

分子病理学講座

(病理学第二)

研究、病理診断業務と多忙な日々を送っています。令和4年の春からは専攻医1名が当教室で病理専門医研修を行っております。

当教室の業務は、教育、研究、病理診断が大きな柱となります。教育に関しては当教室も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。特に行動制限の厳しかった2020年度初頭は講義、実習のすべてがそれまで経験のないリモートでの実施となりましたが、幸い当教室ではバーチャルスライドによる病理実習を長年行ってきた経験があり、リモートでもコロナ前に近いレベルで3年生対象の病理組織実習やポリクリーの病理組織実習を行うことができました。

病理診断業務につきましては、附属病院における病理診断、病理解剖(剖検)を附属病院病理診断科、病理形態学講座(旧第一病理学講座)とともに担当しております。県内外の他病院の病理診断も受託しており、病理医として診断業務にかかなりの時間を割いているのが現状です。近年の病理診断業務では従来の形態観察に加えて、分子病理学的手法による解析が必要に

なっており、特定領域の腫瘍では組織型の決定に遺伝子解析が不可欠となっています。さらに2019年6月から「がん遺伝子パネル検査」が保険適応になりました。「がん遺伝子パネル検査」は生検や手術で採取されたがん組織を用いて、次世代シーケンサーを使用し1回の検査で多数(100以上)の遺伝子を同時に解析するもので、その結果をもとに検出された腫瘍の遺伝子変異に対して効果が期待できる薬剤があるかどうかをがん医療にかかわる多職種の間で専門家に検討する「エキスパートパネル」で検討します。病理医はエキスパートパネルの主要な構成員であり、特になん組織検体の精度管理(ゲノム解析に耐える組織であるかどうか)についての役割が期待されています。このようにこれらの病理医には分子病理学的知識や実践も従来の病理形態学と同様に求められており、これを受けて2020年より日本病理学会による分子病理専門医制度が発足しました。現時点で山口県内の病理専門医のうち分子病理専門医資格を有するものは当教室所属の3名のみであり定期的に行われるエキスパートパネルに参加しています。

病理医不足は全国的な問題ですが、地方では人数不足に加えて高齢化も問題になっています。現在山口県の病理専門医は20名ですが県全体の病理診断を支えるには不十分であり、山口県の病理学、病理診断を担う人材育成が急務です。当教室も教育、研究、

病理診断業務の3つが有機的に調和した講座をめざし、山口県の病理学発展のためにスタッフ一同、全力を尽くして若く優秀な人材を育てていこうと考えております。最後になりましたが、霜仁会の諸先生方には日頃のご厚情に感謝致しますとともに、今後共ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。(近藤智子)

当講座は、山口県立医学専門学校山口県立医科大學への昇格に伴い、昭和25年9月に「病理学教室第二講座」として開設され、昭和39年の国立大学への移管とともに山口大学医学部病理学第二講座となりました。その後、医学部講座の再編成、大学院医学系研究科の再編成を経て現在は「山口大学大学院医学系研究科・分子病理学分野」となっています。

多くの業績をあげました。高橋先生の退官後、平成7年11月に岩手医科大学第一病理学講座教授であった当講座出身の佐々木功典先生が、3代目教授として戻ってこられました。佐々木先生はそれまでの癌細胞増殖に関する研究に加えてFISH&CGHといった細胞遺伝学的手法を用いた癌の遺伝子異常に関する研究や、イメージサイトメトリーを利用した網羅的解析技術の開発に力を注がれ、教育面では現在では多くの大学で利用されているバーチャルスライドを全国の医学部に先駆けて病理学実習に導入されました。平成24年3月に佐々木功典先生が退官された後、平成25年1月より4代目教授として福井医大医学部腫瘍病理学教授であった伊藤浩史先生が着任されました。

現在のスタッフは教授、准教授、講師、助教、技術専門職員、事務補佐員の計6名で、少人数ながら教育、

初代教授の井上一男先生は昭和25年9月に国立大村病院病理部から教授に赴任されました。当時の研究テーマは腎結核でしたが、その後腫瘍学へと変わっていききました。昭和46年8月井上先生が解離性大動脈瘤破裂により急逝され、翌昭和47年6月に助教であった高橋学先生が2代目教授に就任されました。高橋先生の元では従来の病理組織学的研究に加えて癌の細胞増殖(セルサイクル)およびその臨床応用に関する研究

現在のスタッフは教授、准教授、講師、助教、技術専門職員、事務補佐員の計6名で、少人数ながら教育、

現在のスタッフは教授、准教授、講師、助教、技術専門職員、事務補佐員の計6名で、少人数ながら教育、

現在のスタッフは教授、准教授、講師、助教、技術専門職員、事務補佐員の計6名で、少人数ながら教育、





**ANA
CROWNE PLAZA®**
AN IHG® HOTEL
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112(代)

医療関連事業
疾病の診断から治療までを担う

ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

 Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《 日本医書出版協会認定
医学・看護学専門書店 》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串 2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]
<http://www.mm-inoue.co.jp>



**Better Health,
Brighter Future**

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

 **0120-375931**
山口県宇部市島1丁目7-1
<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

印刷を企画から在庫管理・発送まで

一括サポート!

まずはお気軽にご相談ください。

 **瞬報社オフリン印刷株式会社**

[本社] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912

[営業所] 広島・下関物流センター

山口大学医学部霜仁会の 会員総合補償制度

団体割引*が適用されるため、
保険料が**割安**です!!



*団体割引は毎年変動する可能性があります。
本チラシに記載の団体割引は、2023年4月1日～2024年4月1日までに
保険始期のあるご契約に適用されます。

中途加入受付中! 中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと
翌月の1日が補償の開始日となります。

産業医等活動保険にもご加入できます!
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

地震や日常生活による**ケガ**
携行品 賠償責任を補償

団体割引 **5%**

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。
(地震・噴火 これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

会員総合補償制度の
おかげで安心して
医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険 (勤務医向け)

団体割引 **20%**

働けなくなった時の**収入**を補償

団体割引 **10%**

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、
先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ。)



所得補償、団体長期障害所得補償
どちらも加入することをおすすめします。

万一の**がん・病気・ケガ**を補償

団体割引 **10%**

がん補償

- ◆がんと診断確定されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日でも補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります。)
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ。)

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり。)
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ。)



長期間働けなくなった時の**収入**を補償

団体割引 **10%**

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を
補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ。)

突然**介護**が必要になった時に
保険金をお支払

団体割引 **10%**

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用と診断され
その状態が90日を超えて継続した場合
いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払します。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。
詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

お問合せ先・取扱代理店

株式会社パイオニア (平日)午前9時～午後5時
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 4-4-16 小泉第2ビル 3階
TEL : 0120-010-938 FAX : 0120-921-051
http://www.pioneerltd.com yamadai@pioneerltd.com

引受保険会社

東京海上日動火災保険株式会社
(担当部) 医療・福祉法人部 東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014
TEL : 03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp
募集文書番号 : 2023年2月作成 22TC-101637



いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company



東京海上日動



世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

 **第一三共株式会社**
Daiichi-Sankyo

誤操作による接続部外れリスクの低減のために

シユアプラグ™ AD （ゼロ・ミス接続システム）

protect

緑色の部分を持ちながら
輸液セット等を外しましょう！

もし、
取った部分を持って
操作しても…

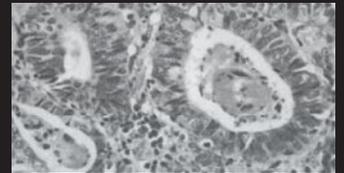
空回りが発生し、
接続部分が外れない。

一般的名称：輸血カテーテル用アダプターセット 販売名：シユアプラグAD 医療機器登録番号：229AA82X00004

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区神宮前2-44-1 www.terumo.co.jp

記載されている社名、商標名称は、テルモ株式会社および其社の関係会社に関する登録商標です。 ©テルモ株式会社2023年5月

病理組織・細胞診検査 動物実験研究用病理標本作製



地域医療に貢献し、 共に発展する検査センター

登録No.100号の登録衛生検査所として病理検査部門の検査を行っています。各種臓器の生検、手術標本はもちろんのこと、研究用試料も扱っています。また、細胞診検査においても各種検体を扱っています。

責任が持てる標本作り

最新の設備を導入し、それらの機器は常に管理され、運用されています。ステップ毎に管理された行程は、日々の仕事を円滑にし、精度の高い検査情報として提供致しております。

すばやい対応・迅速・正確

持ちこまれた検査物は大事なお客様です。検査別、材料別に適した処理を迅速に行います。受付から結果報告まで一貫したシステムで対応しております。

標本が教科書

細胞診では毎日の業務の積み重ねがよりよい結果をもたらします。より豊富なコメントと診断精度の向上に日夜努力しております。

検査項目

- 細胞診：婦人科
- 細胞診：一般（呼吸器・泌尿器・体腔液・その他）
- 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査
特殊染色（免疫染色法を含む）
ER、PgR、HER2染色法
- 研究用病理組織標本作製
※詳細は検査案内書参照

結果報告

- 受け取りから結果報告まで
細胞診：2～3日
病理組織診断：3～4日
（脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は多少時間がかかります）
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

組織、細胞診検査の集配業務行っております。

各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

(社)霜仁会検査センター

〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F
TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

ニューフェイス

自己紹介

山口大学大学院医学系研究科
耳鼻咽喉科学講座

村上 忠

私は山口大学を卒業後、下関医療センターで初期臨床研修を行いました。在学中は直接患者を診察しない科を希望していましたが、研修医が少数で救急受け入れ症例が多い病院であれば生来消極的な性格の私でも実力がつくのではないかと考えて同院を選びました。

夜間外来では指導医の先生方に指導していただきながら急性腹痛や脳血管障害を中心に様々な疾患を経験できたと思います。

そうした生活の中で自然と耳鼻科を志望するようになっていました。今年度より山口大学耳鼻

下関医療センター
<https://shimonoseki.jcho.go.jp>

咽喉科に入局いたしました。改めて耳鼻科領域の疾患の幅広さ、複雑さ、処置・術式の種類の多さに驚くばかりです。良い進路選択だったととても満足しています。至らないことが多いですが、少しでも山口県の医療に貢献できるように、研鑽を重ねたいと思います。

初期臨床研修をおえて

山口大学大学院医学系研究科 眼科学講座

和才友紀

私は山口大学を卒業後、山口大学医学部附属病院で初期研修をさせていただきました。私を感じたことから、眼科に入局することを決めました。

全方向自由型コースでの研修を選択し、およそ1年間は、宇部興産中央病院と関門医療センターでたすき掛けでの研修をさせていただきました。今後一人でも多くの方のお力に沿えるよう日々研鑽して参りたいと思います。

宇部興産中央病院
<https://www.ube-hp.or.jp>
関門医療センター
<https://kannonhosp.go.jp>



包帯巻かれている人が村上です

市中病院での二次救急外来は、全診療科、重症度を問わず、日々多くの患者さんが来院されます。すべての症例でのファーストタッチを経験させていただきました。はじめは不安でいっぱいでしたが、指導医の先生方にご指導いただき、様々な経験を経て、手技や診察の面だけでなく、精神面でも成長することができたと感じています。また、大学病院でもともと興味があった眼科での研修をさせていただいた際に、術後の方々が、見えるようになったととても喜んで退院されていらつしやる姿を見て私まで幸せな気持ちになったこと、手術の美しさに魅力



《事務局からのお願い》

事務局からの郵便物が転居先不明で、多数戻ってきます。住所・所属等に変更がありましたら、ファックスまたは、Eメールでお知らせください。

霜仁会事務局

FAX: (0836) 31-7586 E-Mail: jimu@soujinkai.jp

ジエネシス

自治会長挨拶

2023年度自治会長

医学科 四年 筋田夏帆



以前は部活動に所属する2年生以上の学生の個人での送迎が行われていました。

本年度、山口大学医学部学生自治会長を務めさせていただくことになりました。医学科4年の筋田夏帆と申します。学生自治会は、医学生により良い学生生活の実現を目標として活動している組織です。そのような自治会を1年間任せ頂けることとなり、身の引き締まる思いです。1年間、皆様のお役に立てるよう一生懸命取り組んで参ります。よろしくお願いいたします。

自治会の主な活動と致しましては、今年度も引き続き吉田一小串間での平日におけるバス運行を実施することができました。1年生は山口市のキャンパスで学生生活を送っているため、

要望をアンケートや学生会を通して議論し、学生の総意として大学側に届けることも学生自治会の大切な使命の一つであると考えております。大学側と自治会側で学生教授懇談会を行い、その成果を学生に公表していくとともに、学生が自治会に対して意見の言いやすい環境も作っていきたいと思っております。このように山口大学学生

自己開発コースを終えて

海外オリジナルコース

医学科 四年 夏山穂乃香



今回の留学で、免疫染色法を用いて、マウスの胚の脾臓細胞やヒトの脾臓細胞、膵管癌細胞へのSHAレクチンの結合についての研究

私は、2022年の6月〜11月の5か月間、カリフォルニア州ロサンゼルス市近郊にあるCity of Hope研究所に留学させていただきました。私が在籍させていたのは、Translational research & Cellular Therapeutics教室のKu先生の研究室です。先生の研究室では、膵臓や糖尿病に関する研究をしております。私は



ありました。しかし、メンターのJaime先生と実験計画のアドバイスやプロトコルの確認、実験手技に関する指導をしていただきながらトラブルシューティングを重ね、なんとか実験を進めることができ、共同研究者の山口先生とKu先生の研究に微力ではありますが、お役に立てるような成果をだすことができました。留学の最後には、ラボのメンバーと共同研究者の方々の前で英語での研究報告を行いました。研究報告をすることはもちろん、英語で15分近く話をするのも初めての経験でした。とても大変でしたが、やり終えた後は自分の自信につながりました。私は、将来日本と海外両方で働く医師になりたいと考えています。今回の留学では、海外の研究に実際に触れることができ、



来海外で働きたいという気持ち
持ちがより強くなりました。最後
になりましたが、留学を支えてく
ださった先生方、いつも励まして
くれた家族や友人にもこの場を借
りてお礼を言わせてください。
この5か月間は私にとってかけが
えのない時間になりました。本当
にありがとうございました。今回の
留学経験を生かして、将来は日
本だけでなく海外でも活躍でき
る医師として、世界中の人々に
貢献できるように精進して参り
ます。

自己開発コースを終えて

国内プログラムコース

医学科 四年 重信圭祐



山口大学医学部医学科の
カリキュラムの中で目玉と
も言える「自己開発コー
ス」では約半年間にわた
り、各講座で医学研究に関
わる貴重な機会が与えら
れます。私は2年生の「循
環・呼吸器系」ユニット講
義を通して血管攣縮に興味

を持つていたので、自己開
発コースでは分子細胞生理
学講座(旧・一生理)にお
いて血管攣縮のメカニズム
についての研究をさせて頂
きました。

血管攣縮とは、血圧維持

のための生理的収縮とは異
なり、カルシウムイオン非
依存的に起こる異常な収縮
です。血管攣縮のシグナル
伝達経路は少しずつ明らか
になって来たものの、その経路
において細胞収縮の引き金
となるRhoKinaseの活性化

を制御するタンパク質は未
解明であり、岸博子先生の
ご指導の下でその研究を行
いました。

最初はもちろん手技は分
からないことだらけでした
が、一度しかない自己開発
コースで出来る限りの学び
を得ようと努めました。手
技・プロトコル自体だけで
なくその根拠、些細な疑問
に至るまで先生方には丁寧
かつ沢山のご指導を頂き、
実験操作体得の喜びを感じ
ることが出来ました。実験
テーマに関する知識や過去
の論文などを読み込み理解
が進むに連れて、考えなが
ら実験系を組み立て、手を
動かし、結果を検討して次
の実験に活かすということ
が主体的に出来るようにな
り、「医学研究者としての

自己開発コースを終えて

国内オリジナルコース

医学科 四年 川崎隆一郎



私はこの度の自己開発コ
ースにおいて大阪大学の

ライフスタイル」に浸ること
が出来たと感じしていま
す。「先生に教わる」とい
うよりむしろ「先生と協働
する」感覚で、楽しくも充
実した自己開期間を過ごし
ただけでなく、日々の岸先
生との議論を基に既存の実
験系設計を変え、これが功
を奏して細胞収縮を引き起
こす標的タンパク質断片の
同定に至ったことは、研究
結果としても思い出として
も一生私の心に残るものだ
と思います。

最後になりますが、自己
開発コース期間を通して分
子生物学の深みに触れさせ
て下さった岸博子准教授、
宮本達雄教授をはじめ、一
生理の全ての方にこの場を
お借りして御礼申し上げます。

学院医学系研究科神経細胞
生物学講座で研究をさせて
いただきました。

今回の自己開発コースで
研究を体験させていただい
て感じたことは主に2つあ
ります。1つ目は、自身で
考え、根気強く行うことで



結果が付いてくるというこ
とです。今回は潰瘍性大
腸炎モデルマウスを用いて
潰瘍性大腸炎に伴う不安や
抑うつ症状について研究を
行いました。まだ未解明な
部分が多いテーマであるこ
ともあり、実験に際して想
定外の結果が出ることも多
くありました。また、実験
そのものが成功しないこと
もありました。その度に繰
り返し実験を行い、論文で
得た知見をもとに得た結果
を筋道が通るように考察す
ることで最終的に発表でき

る形に辿り着くことができ
ました。とりわけ最後の2
週間は夜まで研究すること
も多く、忙しい日々でした
が、充実した研究期間を送
ることができたと思います。

2つ目は、多くの人の支
えがあつて充実した自己開
発コースの期間を過ごせた
ということ。まずは、
自己開発コース前のオーブ
ンサイエンスクラブや領域
内発表・修学論文作成にあ
たり山口大学の神経解剖学
講座の先生方にはお世話に
なりました。特に、発表の
スライドや発表の仕方につ
いては多くのご指導を賜り
ました。今回ほど構成やス
ライドの見やすさにこだわ
った発表は今までになく、
この経験は今後に活かせる
貴重なものだったと感じて
います。大阪大学では実験
手技等を指導してくださつ
た先生方をはじめ、研究室
の先生方、山大や阪大の学
生の皆さんなど色々な人
にお世話になりました。研究
室の雰囲気もよく、研究室
の先生方や学生の皆さんは
親しみやすい方ばかりで、
非常に充実した期間を過ご
すことができました。研究
期間では、忙しい時もこの
ような人たちのおかげで乗
り越えることができたと思

クラブ紹介

美術部

医学科 三年

板淵琉星



山口大学医学部美術部の
主将を務めさせていただい
ております、医学科3年の
板淵琉星と申します。

美術部は計14名で活動し
ています。活動は毎週木曜
日、医学会館で行っており
ます。基本的には個人制作
がメインであり、11月の医
学祭に向けて作品を仕上げ
ていくことが主な活動で
す。作品のジャンルは幅広
く、絵画はもちろんのこ
と、デジタル絵や折り紙、
PCを用いた3Dモデルの
制作を行う部員もおりま

す。現在は使われていま
せんが陶芸窯も所有してい
るため、陶芸作品の制作も
可能です。また、コロナウ
イルス蔓延以前には、部員
で美術館に行くなどの野
外活動も行っていました。
部の雰囲気はとても良
く、勉強に専念するための
休部にも寛容であるため、
バランスのとれた学生生活
を送ることが出来ます。ま
た、例年の入部者には作品
制作を行なったことがない
人も多いため、大学から制
作を始めてみたい方も歓迎
しています。

最後に、日頃から顧問の
松本先生をはじめとするO
B、OGの先生方には多大
なるご支援を賜り、深く感
謝申し上げます。これから
も部員一同、制作活動によ
り熱を入れ、美術品展示等
にてさらに多くの人々を魅
了できる作品が作れるよ
う、より一層精進して参り
ます。今後ともご指導ご鞭
撻のほどよろしくお願い
いたします。

ご逝去を悼む

畏友、万波誠先生の 逝去の報に接して

山口県済生会豊浦病院特別顧問



上領頼啓

(昭和44年卒)

忘れもしない昨年の10月
14日午後7時過ぎ、私の携
帯電話に万波誠先生の次女
から電話が入り、「父が心
筋梗塞で亡くなった」。
一瞬、我が耳を疑いもう一
度聞き返した。「不死身の
男、万ちゃん(万波先生)
が死ぬはずがない」と何度
も叫んだ。畏友とも云うべ
き彼の逝去の悲報は将に青
天の霹靂であった。翌日起
床して新聞の死亡記事を見
た時、この痛恨事は事実で
あることを知らされた。私
は彼と山口大学医学部の同
期で彼の多くの思い出を
作って来たが故に、その時
その時のことが記憶に蘇り、
その記憶の中の彼が最早現
世に存在しないと思うと実

に悲しく、名状し難い痛切
な寂しさに襲われ、慟哭を
禁じ得ない。「もう万ちゃ
んは居ない。もう逢うこと
は出来ない」の言葉を繰り返
しながら、4カ月経った
今、漸く追悼文を起稿する
気になったので、茲に悲痛
に堪えながら、彼との思い
出の一端を綴り、彼の靈魂
に捧げたい。
万波先生は医学生時代青
春を謳歌していた。準硬式
野球部に所属し、三振が多
いものの打順3番のスラッ
ガーとして活躍、また暇を
見つけては私を誘って厚東
川に銜を手に、腰に魚籠を
ぶら下げて鰻を捕りに行つ
たり、霜降山に鶴嘴を担い
で自然薯を堀に行ったり、
横恋慕に胸を焦がし、射止
めた彼女に溢れるような情
愛を傾けたりした。バッハ
のブランデンブルク協奏曲
を聴くために喫茶店に出入
りし、その頃トルストイ、
チャーホフ、ツルゲーネフ、
ドストエフスキーと云った
ロシア文学を涉猟し、彼の
下宿に行くと万年床の煎餅
布団の枕元に数冊の小説が
乱雑に置かれていた。当時
全国に吹き荒れていた学生
運動には与せず、民医連に
入って学習会に参加しマル
クス主義の勉強をしたりし
ていた。昭和44年大学を卒
業して一緒に泌尿器科学教
室に入局したが、1年後に
市立宇和島病院に赴任し、
腎移植をライフワークと定
め、広島大学第二外科土肥
雪彦教授と福田康彦助教授
の指導で腎移植手術を開始
した。私は昭和51年に米國
ウイスコンシン大学に留学
して、友人を介して臓
器移植の泰斗ウイスコンシ
ン大学外科学主任教授Dr.
Belsarの知己を得て、Dr.
Belsar執刀の腎移植を見学
する機会があつた。彼にそ
の時の感想を手紙に認め、
Dr. Belsarの下での研鑽を
勧めた。当時市立宇和島病
院泌尿器科は彼一人で診療
に当たっていたが、思い立
つたら吉日よろしく、副院長
長近藤俊文先生(後、院長
の寛大な配慮で、発つ
鳥跡を濁して飛ぶように米



前列左から福田康彦、近藤俊文、万波誠、Bobby Hoffmann、岡村一博、筆者

国にやって来た。この時私が彼をウイスコンシン州の州都マディソンの空港に迎えに行った。元来形貌には無頓着の彼が足には靴を履き、手に旅行鞆を持ってそれなりに身形の整った姿をしているのを目にして、馬子にも衣装とはよく云ったものだ、と思ったことを思い出した。彼はDr. Belsar

に信頼されて手術の助手をしたり、主任コーディネーターのMr. Bobby Hoffmannと屢々ヘリコプターに搭乗してドナープロキユアメントに出掛けたりした。平成13年4月6日に松山市のJALシティホテルで「宇和島徳洲会病院泌尿器科 万波誠先生腎移植1000例達成記念祝賀会」を開催し

たところ、遠くマディソンからMr. Hoffmannも参加してくれた。腎移植1000例の達成は彼の榊風沐雨の奮励努力に加えて、祝賀会に馳せ参じた仲間協力があつたればこそと思うが、近藤先生の移植医療に対する理解と支援が無かりせば決して為し得なかつたものと思う。彼は近藤先生と云う実に良き師に出会つたものと、今更ながら彼の僥倖に感じ入っている。

平成18年10月に市立宇和島病院における臓器売買事件（万波先生は不関与）に端を発して、彼を中心に瀬戸内グループなる医師仲間による42例の病氣腎移植（癌等の病巣を取り除いた腎を移植・修復腎移植）の実施が明らかになった。日本移植学会を始め移植関連学会は安全性に問題があり、手術の妥当性に欠けるとしてこぞって非難し、同19年厚労省は公的医療の対象外として手術を原則禁止した。しかし受腎者に癌の再発の可能性は無く、欧米では一般に施行されている手法であり、患者やその家族による精力的な署名運動展開の結果、厚労省は同20年に先進医療として認可した。彼に「厚労省が認めて良かったな」と電話すると「そうらしいな、みんな周囲の人が遣つて呉れたんじや」とまるで他人ごとの様な返事に拍子抜けがした。

私は昨年末に彼の遺骨が安置されている岡山県の吉永の実家を訪ね、遺影の前で彼の来し方を思い巡らせながら掌を合わせた。私は帰途、近くの彼の母校岡山県立閑谷高校を訪ねた。閑谷高校の歴史は江戸時代まで遡り、備前岡山藩第3代藩主池田光政によって設立された閑谷学校がその起源であり、日本最古の私立学校と高校の歴史の教科書で習っていたので、歴史上の興味に加えて彼が通学した学校と云うことで関心もあつた。樹木の多くは葉を落としていたが、狭隘な谷間の森閑とした中に佇む由緒ある学舎群には何れの建造物も荘重で気品と威厳を感じた。私は俗世と隔絶した如きこの静謐で詩情豊かな環境がクラシック音楽を聴き、ロシア文学を愛した万波先生の品性を形成し、彼をして無私無偏・無欲恬淡な特異な資質たらしめたのではないかと思つた。

今は、冥界の人となつた万波先生に何れまた天界で再会したい思いである。

編集後記

訃報

- この4月で300号に到達しました。これまで多くの同窓生に投稿いただき、感謝申し上げます。2020年に始まったCOVID-19感染拡大により3年間同期会、地方会など中止せざるを得ない厳しい状況におかれましました。それに伴い会報の内容もやや寂しくなる傾向にあり、企画、構成に苦勞することもありました。
- しかし5月8日にCOVID-19は5類に移行します。先生方におかれましては以前のように会を復活し旧交を温め、その様子を投稿していただけたら幸甚です。
- (藤野 隆)

近藤 勉先生（昭37年卒）
 令和3年7月17日逝去
 西平英智先生（昭42年卒）
 令和3年12月15日逝去
 長沼芳季先生（昭25年卒）
 令和4年1月3日逝去
 端野洋征先生（昭54年卒）
 令和4年9月15日逝去
 阿美古秀美先生（昭44年卒）
 令和4年12月10日逝去
 藤井百合蔵先生（昭37年卒）
 令和4年12月17日逝去
 田中正則先生（昭38年卒）
 令和4年12月29日逝去
 長屋壽雄先生（昭54年卒）
 令和4年12月30日逝去
 多賀谷創平先生（昭24年卒）
 令和4年12月31日逝去
 渡邊政徳先生（昭37年卒）
 令和4年12月31日逝去
 宮村恵宣先生（昭41年卒）
 令和5年2月1日逝去
 土屋公德先生（昭37年卒）
 令和5年2月7日逝去
 小原 正先生（昭32年卒）
 令和5年2月11日逝去
 河合伸也先生（昭40年卒）
 令和5年2月27日逝去
 藤井英雄先生（昭29年卒）
 令和5年3月1日逝去
 瀬戸信夫先生（昭50年卒）
 令和5年3月2日逝去
 ご冥福をお祈りいたします。



2023年4月より

霜仁会の ホームページ リニューアル!


<https://soujinkai.jp/>


パソコンの他、
スマホや
タブレットからも
快適にご利用
いただけるよう
になりました。



👉 会員ページを開設

- 会員向けのお知らせが充実
- 住所や勤務先など、会員情報の変更はこちらから簡単に申請できます。
- 「霜仁会会報」バックナンバーが閲覧できます。

会員ページへは

専用のID、パスワードが必要です。

IDは各会員番号の下4桁(例:1234)

パスワードは会員共通 **soujinkai**

※ID、パスワードの他人への情報提供や開示は固く禁止いたします。

👉 ログマークを作成しました

霜仁会会報300号を記念して、新たにログマークを作成しました。

今後は会報はじめ、広報活動や各種印刷物に活用していきます。

※ロゴデータを使用になる場合は、ホームページにある
ログマーク使用申請書をダウンロードしてお申し込みください。

不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

山口大学医学部同窓会 一般社団法人 **霜仁会 事務局**
TEL/**0836-22-2029** Mail/jimu@soujinkai.jp
FAX/0836-31-7586



霜降山の山をイメージし、
霜仁会「Soujinkai」の「S」をアレンジ。
カラーは山口大学の
スクールカラーにしました。